

地域社会における地域循環バス運行の取り組みに関する考察

—石川県金沢市、徳島県徳島市、大阪府堺市を事例として—

法政大学大学院 政策創造研究科 教授 博士(工学)、博士(政策学) 上山 肇

キーワード：地域循環バス 公共交通 コミュニティ
金沢市 徳島市 堺市

1. はじめに

地域住民の移動手段を確保するために地方自治体が運用・運行しているものとして“コミュニティバス”がある。一般的に、交通事業者が赤字を理由に路線から撤退した後、高齢者や障がい者、学生などの交通弱者の交通手段が失われないように費用を市町村等が負担してバスを委託して運行することが多い。

本稿では、地方都市における自治体がコミュニティバスを含む地域循環バスについて、石川県金沢市、徳島県徳島市、大阪府堺市を事例に、自治体における取り組みの姿勢と実態を知るために、自治体担当者からヒアリングを行った。

2. コミュニティバスの概要と運行の経緯・実態

そもそも“コミュニティバス”には明確な定義はないが、市街地において公共交通サービスを提供する以外にも、市街地内の主要な施設や観光の拠点などを循環するものなどいろいろなかたちが存在する。その先駆けとなったものとして、東京都多摩地域の1980年代に運行を開始した「武蔵村山市内循環バス」や「日野市ミニバス」、1990年代の「武蔵野市ムーバス」がある。その後、地域特性に応じて様々な使い方を工夫しながら日本全国各地に広がっている。

国土交通省がまとめている全国の事例をみても自治体によって様々な取り組みがなされていることがわかる¹⁾。

3. 調査方法と結果

石川県金沢市、徳島県徳島市、大阪府堺市の各自治体の担当部署を訪ねヒアリング形式で導入の経緯、運用の状況、担当部署として抱えている問題・課題等についてヒアリングを行った。調査日、担当部署、ヒアリング結果については以下の通りである。

3.1 石川県金沢市

- (1) 訪問日：2019年9月4日（水）午後
- (2) 担当部署：金沢市 都市政策局 交通政策部 歩ける環境推進課
- (3) ヒアリング結果

[特徴]

金沢市は人口約46万人の北陸地方における経済や文化の中心的な都市である。市内中心部は、藩政期に形づくられた街路構成を骨格として狭あい道路が数多く存在する。

このような道路の特性から、路線バスが通ることができず、公共交通の利用が不便な地域が多く存在している。そうしたことから新たな移動手段の導入が求められ、1999年に「金沢ふらっとバス」という名称の住宅地と交通結節点や商店街などを結ぶ循環バスが誕生した。現在、市民の気軽な足として利用されている（写真1、写真2）。

「金沢ふらっとバス」の特徴を表1に示す²⁾。

その他にも車内は、①地域情報（イベント開催のお知らせ等）の提供 ②車椅子固定装置の設置 ③横向きシートの設置（段差がない車内で高齢者や子どもにとって安心して使え、かつ話しやすい）④入口・出口にステップがなく、手動式スロープもついて車椅子の方も乗り降りがしやすいなど様々な工夫がなされている。



写真1 金沢市役所前を走る「金沢ふらっとバス」
(筆者撮影)

写真2 街中を走る「金沢ふらっとバス」(筆者撮影)

表1「金沢ふらっとバス」の特徴

(金沢市 HP より引用・加筆し筆者作成)

特 徴	内 容
愛称の由来	気軽にしかける様子を示した「ふらっと」と、入口から出口まで車内に段差がないことを示した「フラット(英語)」の2つの意味をあわせ持っている。
デザイン	ボディのカラーリングは、加賀友禅の古典図柄を現代風にアレンジした金沢らしいデザインとなっている。
車両本体構造	「国内初の小型ノンステップバス」で、入口、出口にステップがなく、高齢者や子どもでも楽に乗り降りが可能である。また、スロープや車椅子固定装置もつき、車椅子の方も乗車できる構造となっている。
道路形態とバス停	街中には、幅4m、長さ330mのバス通行帯を設けている。バス停間隔は、高齢者が無理なく歩くことができる200mを目安として設置している。バス停もバス同様、加賀友禅の図柄を配した、わかりやすいデザインとなっている。
運行ダイヤ	現在、4ルートで運行している。運行ダイヤは、1時間に4便。15分間隔。39便/1日。通院・買物の利用を考え、土日とも休まず運行している。
利用料金	気軽に利用できるように、1コイン運賃 大人100円、子ども50円。未就学児は2人目以降50円。回数券は1,000円(11枚つづり)。車内でも販売。此花・菊川・材木ルートは、北陸鉄道ICカード「ICa(アイカ)」が利用可能。

[課題]

どの自治体も抱えているが、経費負担の大きさについては金沢市も同様に課題として捉えている。また、運転手の不足といった課題もあり、このことについては定年の延長という面からも経費がさらに拡大してしまうという現状があるという。

3.2 徳島県徳島市

- (1) 訪問日：2019年9月13日(金) 午前
- (2) 担当部署：徳島市 都市整備部 地域交通課
- (3) ヒアリング結果

[特徴]

徳島市はバス交通が盛んであり、徳島市内を走る路線バスとしては、徳島市が運行するもの、交通局が運行するもの、徳島バスが運行するものがある(写真3、写真4、

写真5)。

徳島市・徳島市交通局・徳島バスは共同で冊子「バスに乗ろう～もっと気軽に もっと身近に～」を誰にでもわかりやすいものとして作成し、バスの利用を広く呼び掛けている(写真3)。その内容はバスの効用や重要性、利用の仕方、マナーなど多岐にわたっている³⁾。



写真3 徳島市・徳島市交通局・徳島バス共同で作成した冊子(表紙)



写真4 徳島市内を走る路線バス(写真3冊子P12)



写真5 バスが集結している徳島駅前。コミュニティバスではないが、他のバスと同じように市内を走る小型バス(筆者撮影)

その他に徳島市では、自主運行バスについて次のような取り組みを行っている。

〔徳島市の自主運行バス〕

徳島市では2010年3月に「徳島市地域公共交通総合連携計画」を策定しているが、計画目標の一つである「公共交通不便地域の減少」を達成するため、「地域住民によるバス運行へのサポート」事業を始めた。このサポート事業の最初の事例が、地域自主運行バス「応神ふれあいバス」である（写真6、表2）。

具体的には、地域住民が主体となって高齢者などの移動手段を確保するため、住民アンケートや試験運行などによるニーズ確認も行いながら、2011年12月に「応神ふれあいバス」の運行をスタートさせた⁴⁾。

〔徳島市地域自主運行バス等支援事業〕

徳島市では、バス停や鉄道駅までの距離が遠いなど、日常生活（買物・通院）の移動に支障・不便がある公共交通不便地域において、地域住民が中心となって運営する地域自主運行バス等への支援を行っている。

地域自主運行バス等の運行に向けて、徳島市は地域住民（運行協議会）に対して、運行計画作成への助言や資金面でのサポートなどを行い、「地域住民」「運行事業者」「徳島市」の3者が連携・協働して、地域のニーズに合った新たな移動手段の導入を目指すことにしている（図1）。

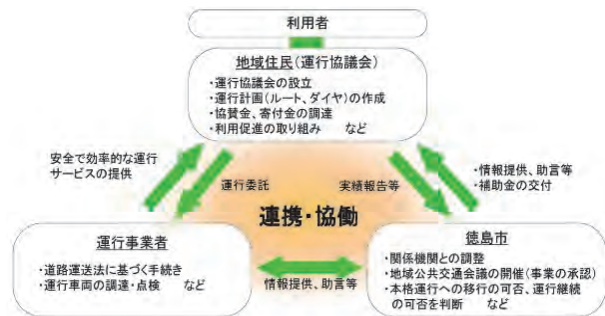


図1 地域自主運行バス等支援事業における役割分担のイメージ（出典：徳島市ホームページ⁵⁾）

〔地域自主運行バスの4原則〕

徳島市では、地域の生活交通手段の確保と福祉の向上を図ることを目的とする地域自主運行バス等の「運行の原則」を①公共交通不便地域であること ②採算性が確保できること ③地域住民のニーズがあること ④高齢者等の移動制約者が利用しやすいこと としている。

地域自主運行バスの導入を検討する場合には、この4つの運行の原則を踏まえた上で、運行計画を立案・作成する必要がある（図2）。

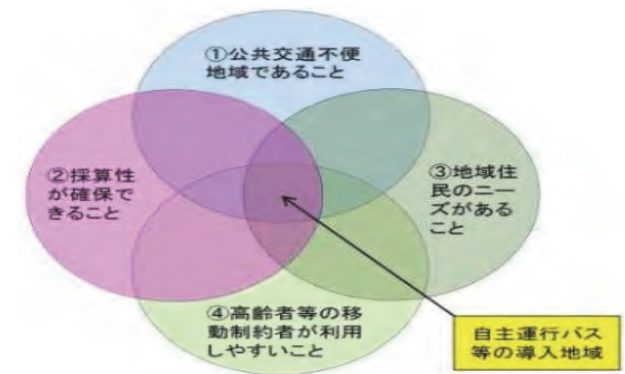


図2 地域自主運行バスの4原則のイメージ

（出典：徳島市ホームページ⁵⁾）

〔徳島市地域自主運行バス等運行手引き⁶⁾〕

「徳島市地域自主運行バス等運行手引き」は、公共交通不便地域に住む方々が、地域自主運行バス等を導入・運行しようとする時に、導入検討から運行開始・継続までの手順と、運行の計画・実施等の基準となる考え方・注意点を示したものである。地域自主運行バス導入に向けて取り組みやすいよう、2017年7月に運行手引きをわかりやすく改定している。また、改定にあわせ従来の運行経費の助成制度に加え、導入検討活動を支援するために新しい助成制度を創設した。

応神地区の他にも最寄りのバス停留所や駅までの距離がある地域では、住民の高齢化に伴い、日常生活（買い物、通院等）に支障がでてくるとも予想されることから、「応神ふれあいバス」の取り組み事例とサポート事業について紹介することにより、地域自主運行バス導入の際に活用してもらえればと考えている。最近、他の地区（1地区）から相談があるという。

このバスは単に移動手段としての役割を担うだけでなく、バスに乗り合わせた人たちの会話によって“交流の場”となり、普段家にとじこもっている高齢者の方々の外出支援の役割も果たしているという。



写真6 四国大学前停留所でバスに乗り込む利用者（出典：徳島市ホームページ）

〔担当部署としての意見・課題〕

徳島では、バスがきめ細かく運行されているため、市民から特に新たな要望といったものはない。一部地域（応神地区）において、2011年12月から徳島県内では初めての取り組み事例となる上述の地域自主運行バス「応神ふれあいバス」を運行している実績があり、この地域自主運行バスについては今後、市民の要望のあるところから随時対応していくとしている。

表2 徳島市自主運行バス「応神ふれあいバス」の特徴

（徳島市 HP より引用・加筆し筆者作成）

特 徴	内 容
愛称の由来	応神地区を運行していることから「応神ふれあいバス」と呼ばれている。
車両規模と運行ルート	10人乗りジャンボタクシー1台で運行。運行ルートは、徳島市応神町古川を起点に2系統で、住民自らがルートや運行ダイヤの設定を行った。
応神地区の地域事情	商店や医療施設が少なく、公共交通手段はJR吉成駅。幹線道路を徳島バスが運行。マイカーを運転しない高齢者は日常生活において買い物や通院に不便を感じている地域。
停留所	停留所はスーパーや病院、金融機関、高齢者福祉施設、町の集会所など約10キロメートルの運行ルート上に30カ所近く設置。買い物や通院に利用する高齢者などの利便性の向上が図られている。

3.3 大阪府堺市

- (1) 訪問日：2019年8月23日（金）午前
- (2) 担当部署：堺市 建築都市局 交通部 公共交通課
文化都市局 観光推進課
- (3) ヒアリング結果

〔現在は運行していないコミュニティバスと新たな施策〕

堺市では2000年10月から2013年6月まで「堺市ふれあいバス」という名称でコミュニティバス（地域循環バス）を運行していたが、現在は運行していない。コミュニティバスの前身は、南海バスに運行を委託していた堺市の各地区にある老人福祉センターと地域とを結んでいた「堺市立老人福祉センター送迎バス」である。

以前走っていたコミュニティバスは、2000年10月2日から運行を開始したが、利用状況が低迷していたこともあり、市は2013年6月末日で廃止している。2013年7月1日以降は、その代わりとなる手段（仕組み）として、おでかけ応援バス制度・阪堺電車（写真7）の高齢者運賃割引制度の利用日を拡大する施策の実施や、2014年3月からの実証実験を経てデマンド交通「堺市乗合タクシー」を実施している。

〔堺市乗合タクシー⁷⁾〕

高齢化に伴い、自ら通院や買い物などの日常生活が困難な市民の移動手段を確保するために、堺市が実証実験

を経て2014年3月10日より運転を開始したのが乗合タクシーである。直接の置き換えではないが、一部の停留所は以前のバス（ふれあいバス）のものとはほぼ同位置にある他、停留所の形状も以前のバスのものを踏襲している。あくまでも交通利便性の確保を目的としており、代替手段が多くある地域には基本的に設置されていない（表3）。

表3 「堺市乗合タクシー」の特徴

（堺市 HP より引用・加筆し筆者作成）

特 徴	内 容
利用方法	完全予約制。利用に際しては事前の電話予約が必要。予約は乗車の1週間前から3時間前まで。午前中の第1便は前日の18時までの予約が必要。
運行状況	9ルートで運行。運行曜日はふれあいバスの週3日に対し、月曜～金曜の5日間とし、利便性を向上。本数は午前2便、午後2便。定員4名（運転手以外）のセダン型タクシーで運行。大阪第一交通に運行を委託。定員を超える予約があると、増車で対応するか、乗車を断る場合がある。
運行ルート	運行ルート上の全ての停留所に予約が無い場合は運休。殆どの路線は特定の駅同士を結ぶ路線。美原区循環のBルートを除き、ループ型ではなく、始終点が別々に存在。始終点が同一であり別ルートを通行する2つずつの路線が存在。
利用料金	運賃は大人300円、小学生150円。おでかけ応援カードを呈示した場合は100円。障がい者割引も存在（大人子供共に半額）。

堺市へのヒアリングからは、デマンドタクシーへの移行により、利用者の偏り（特定の人だけが使っている）という新たな課題も生じていることも伺えた。



写真7 市内には阪堺線（チンチン電車）も走る
（筆者撮影）

4. おわりに

本稿では地域循環バスについて、石川県金沢市、徳島県徳島市、大阪府堺市を事例に考察してきたが、本年度

はこの3例以外にも神戸市や掛川市などにも赴き現地の状況を視察することができた。

全体的に感じたこととして、どの自治体も交通不便地域や高齢化への対応策として、地域循環バスの必要性は十分に認識しているものの、実際の運用・運行にあたっ

ては、経費や運転手の確保等の課題も同時にもっていることがわかった。特に、高齢者・障がい者の方々にとって地域の身近な交通手段となっているこの地域循環バスについては、今後、運行を持続するための仕組みについて考えていく必要がある。

参考・引用文献

- 1) 国土交通省 総合政策局 交通計画課：「地域公共交通の活性化・再生への事例集」
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/htm/all.html>
- 2) 金沢ふらっとバストップページ：
<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/11310/taisaku/flatbus/>
- 3) 徳島市・徳島市交通局・徳島バス（2017）：「バスに乘ろう～もっと気軽に もっと身近に～」
- 4) 応神ふれあいバス運行協議会：「応神ふれあいバスの取り組みについて」
- 5) 徳島市ホームページ：
https://www.city.tokushima.tokushima.jp/kurashi/koutsu/ojin_fureaibus.html
- 6) 徳島市地域自主運行バス等運行手引き：
https://www.city.tokushima.tokushima.jp>chiikijishuunko_unkotebiki
- 7) 堺市（2018）パンフレット：「堺市乗合タクシー」

* 本研究の調査にあたっては2019年度「千代田学事業」の補助金を一部使用している。（研究科題名：地域社会における地域循環バスの実態と今後の展開可能性-地域福祉交通「風ぐるま」の活用方法の検証-）